

■ 戦略経営研究会 126th ミーティング 議事録

日 時：2019年2月2日(土) 14:00-17:00

場 所：東京／神田「神田T-space」

テーマ：防災クッキングと首都直下型地震 ～食とコミュニティ力で日常と非日常を越える～

発表者：加藤勉さん（特定非営利活動法人日本防災推進機構理事長、  
一般社団法人ベジモア食育協会地域防災アドバイザー）

参加者：9人（財務コンサルタント、大学教員、ビジネス研修講師、会社経営、税理士、FP、  
行政書士、司法書士等）

目次：

1. 防災クッキング講座とは？
2. これからの災害時の考え方
3. まとめ／準備は何をすべきか

発表：

大規模災害の発生直後は、被災者自身だけでなく行政も何もできません。時間が経過することに対応は行なわれますが、避難所などで食事に支障が生じてきます。災害関連死となることもあります。「避難所でも野菜」という食育が必要です。今回、「防災と食」というきっかけをご提供します。

1. 防災クッキング講座とは？

「防災に役立つクッキング講座」は、日常の食を非日常の食につなげること、一人一人の防災への意識を向上させ、コミュニティへの参加を促すことを目的としています。防災クッキングは、子どもでも作れます。リュックの食材とライターだけで料理できます。また、主催するのはベジモア食育協会ですので、身体の健康、心の健康、栄養バランス、献立のバランスを工夫しています。現在、北千住にある古民家を改装し、拠点としています。子どもからお年寄りまで参加し、地域のコミュニティの場としても活用されています。

「防災に役立つクッキング講座」では以下を提供しています。①ローリングストック料理教室は非常食のローテーションです。②パック・クッキング教室はビニール袋で行います。最低限の環境にて料理します。たとえば、ビニール袋でカレーを作ります。ドライ・ベジタブル、ドライ・フルーツを入れます。しかし、まだ市場に適切な価格のものは出回っていません。また、アレルギー保持者でも対応できる食材を備蓄しなくてはなりません。③アウトドア料理教室は、少々、不自由な状況下で行うことに慣れるというものです。

## 2. これからの災害時の考え方

災害時にいま私たちにできることは何があるのでしょうか？。災害ボランティアとして持つべき視点があります。アンパンマンはお腹が空いている人に自身の身体を分け与えます。なぜ、このような活動を続けることができるのでしょうか？。それは、ジャムおじさんがいるからです。後方部隊がいるから活動を継続できます。資源には限りがあります。補給がなくては、活動を継続できません。災害ボランティアとは何でしょうか？。自分にできることをそれぞれの生活の中で考え、能動的な働きかけを通じて実践していくことです。BCP やマニュアルの策定をすれば、それで終わりではありません。自発性、そして、災害は必ず来るという認識が必要です。これが、これからの災害対応の基本的な考え方です。関東大震災は首都直下型地震ではありませんでした。しかし、甚大な人的被害が出ました。この時の震災死の 90%が火災です。来るべき首都直下型がどうなるかはわかりません。実際に起きた事態に迅速かつ適切に対応できるかがポイントになります。企業は BCP やマニュアルを何のために策定しているのでしょうか？。ステークホルダーの生命・身体を守るためです。また、いかに早く回復できるかという視点が大切になっています。災害は防げません。防災からレジリエンスへと考え方が変わってきています。より良い復旧・復興ができるかがポイントということです。たとえば、首都直下型地震で、コンクリートがれきが大量に発生した場合、これをどこに捨てるのでしょうか？。ある方は、魚礁のために人工海底山脈を造ることを想定し、動いています。危機管理、災害対応現場に求められるものとして、プロアクティブの原則があります。これは、①「疑わしいときは行動せよ」、②「最悪事態を想定して行動せよ」、③「空振りには許されるが見逃しは許されない」とするものです。家族としての共通行動原理とし、自分の事として考え、さらに、日頃の訓練が必要です。なお、合理的な意思決定プロセスの 6 段階というものもあります。①問題を認識し、②意思決定の判断基準を特定し、③判断基準を秤にかけ、④代替案を考え、⑤それぞれの案を判断基準に照らして評点をつけ、⑥最適な意思決定を見積もるとするものです。

## 3. まとめ／準備は何をすべきか

非常食として、みなさんのご自宅には何が準備されているのでしょうか？。これは、家庭ごとに異なります。赤ちゃんがいれば、おむつ、お年寄りがいれば、常備薬なども必要になります。非常袋などのパッケージだけで判断せず、わが家の非常食、持ち出し袋、私の必要最低限のものを判断する必要があります。そのためには、己を知ること、地域を知ることです。たとえば、タワーマンションなのか、木造建物密集地域なのかです。発災後 3 日間、1 週間を生き残ることを考えます。ベジモア食育協会ではドライ・ベジタブルを推奨しています。また、非常食の開発を進めています。首都直下型地震を生き残るには、水だけで料理できるもので日常を過ごし、非日常につなげる必要があります。

以上